

# 国土交通大臣賞（優秀賞）

## 水の守り人

京都府 京都市立西京高等学校附属中学校 三年 河井 紀乃

ミンミンミン。蝉の大合唱が聞こえる。ブォー。船の周りで澄んだきれいな水が跳ねている。キラキラと八月の陽を受けて輝く、周りを森で囲まれたダム湖の上を私は船に乗って進んでいた。淀川ダム統合管理事務所と天ヶ瀬ダムを見学させていただいた時、私は「水の守り人達」と出会ったのだった。

「天ヶ瀬ダムは、洪水を防ぐ、水道水の供給、発電という三つの役割を持つた多目的ダムなのです。」

ウーン。水面に出ているバリケードのようなものが船の行く手をあけた。何のためのものなのだろう？私は周りを見渡した。あつ、

「あんなに大きな家具が流れてくるのですか。」

「そうなんです。ゴミが放水口の方まで流れると故障の原因になるので、手前のバリケードでゴミをとめ、取り除くんですよ。」

確かにきれいだと思っていた湖の、バリケードの向こうにペットボトルやビニール袋のごみが頼りなく浮いている。ゴミを投棄した人は、それが流れ着いてダムを壊しかねないことをこれっぽっちも意識していないだろう。

「うわぁー。放水口の下に立つと、とても迫力があるんですね。」

続いて私はダムの表側の壁に沿って続く通路を歩かせてもらった。がくがく、足が震える。思っていたよりもはるかに高い。壁の向こうにはあの巨大なダム湖があるのだからなおさら怖い。大きな大きな砦だ。ふと下をよく見るとため池のようなものがある。

「あれは放水時の段波を下流に伝えないための工夫ですよ。それでも放水時は危険なので下流に注意を促すようにしています。」

そういえば、先に見学した淀川ダム統合管理室は巨大スクリーンで全ての川を監視し、雨量など様々なデータをもとに、洪水の危険性を考えた放水量を決めたりする人々がいる緊張感漂う部屋だった。見学した全

てが人を守るという安全第一のもとに動いていた。

人間は大昔から水と時に戦い、時に上手く付き合いつながらその恩恵を享受してきた。その長い歴史を経て最前線で水に携わる「水の守り人」が生まれた。所長さんから、洪水が起るたびにダムがその被害を拡大させたという意見が多く上がると聞いた。人は自然の営みを止めることはできないので、人が作ったものや最前線で働く人に不満を持つてしまふ。逆に、豪雨の後洪水が起きなかつたら、私達は水の守り人の存在に気が付きさえしない。私は管理事務所長さんからひしひしと伝わってきた水にかける思いの強さや、職員さんのプロとしての仕事に対しての姿勢から、当たり前だと思っていた水の向こう側を初めて実感した。そして水の守り人に迷惑をかけないようにしたいと思った。しかし私にいったい何ができるのだろうか。

「やっぱり自然と人間を一度に相手にすると判断することが難しいと気がたくさんあるんです。そういうことも含め皆さんにこの仕事について知ってほしいですね。」

この姿を知ったからこそ私達が水の守り人をそう簡単に手伝ったり、ましてや批判することはできないと思った。

天ヶ瀬ダムでは、地域住民と「協働事業」を行っていると聞いた。これは水に関する知識を住民に提供しそれを住民がさらに広めるというものらしい。これなら私でも力になれるのではないか。水の守り人の仕事を多くの人が知り、自分達はその最前線で水と戦ってくれている人の後ろにいると意識することで、自然と水の守り人が仕事をしやすい環境をつくれるのではないか。環境保全のために「水を汚さないようにしよう」「水を大切にしよう」ということを広める活動はたくさんあるが、私はそれに加えて、水が「水の守り人」の手を通して流れていることも広めたいと思っている。